

## 2021年度FB相談記録 統計分析 これからが本番！ 増える生活保護と困窮者の立ち直り支援

●宮坂真耶 (編集担当職員)



### ◆複数利用者＝短期間で 立ち直れない人が増加

FB相談者の利用回数を年度比較した(利用回数=新規利用者+複数回利用者の人数)。2018年度(681回)と比較すると、2020年度は約2倍(1294回)、2021年度は約2.4倍(1658回)となった。2020年1月を境に、新規利用者も複数回利用者も増加した。特に複数回利用者が増えている。(2018年度は159人が複数利用・平均1.9回に対し、2021年度は290人が複数利用・平均5.7回)。

以前は「次の仕事が見つかるまで」など、短期的な支援で終了していた。しかし、長期化するコロナ禍の影響で、不安定な非正規雇用、ひとり親家庭の負担増、低年金の高齢者など、従来からあった課題が浮き彫りになり、その課題も自力ですぐには解決できない。単発の食品支援では生活再建まで立ち行かず、長期的にFBに頼らざるを得ない状況だ。

### ◆若年層、子育て世代、 年金生活者の多様な課題

世代別の相談者の人数の推移(2018年度⇒2021年度)では、①10代～20代の若年層、②40～50代の子育て世帯層、③70代以上の年金生活者層の増加が著しい。

①10代は2人⇒6人。Aさん(17)は生活費が自身のバイト代のみという低収入・家族など頼れる後ろ盾がない。Bさん(16)はひとり親である母親に精神疾患があり、日々の食事がとれていない。

20代は30人⇒40人。Cさん(24)は、妻と0歳児と暮らしている。精神疾患の妻の看病と

子育てがあり、仕事に行けなくなった。

②40代は70人⇒124人で約1.8倍。Dさん(46)は70代の夫と15歳の息子と暮らす。自身は外国ルーツがあり、コロナ禍の影響で英語教室の仕事が激減し困窮した。Eさん(49)は料理人としてホテルで勤めていたが、コロナ禍の影響で失業した。

50代は59人⇒146人で約2.5倍。Fさん(50)は、80代の母親の障害年金月8万円のみで生活している。Gさん(54)は、3年前に体調不良で退職。以来仕事が見つからず、貯金も底をついてきたので市役所に相談したところ、ハローワークを紹介され、そこでFBを紹介された。

③70代は16人⇒49人で約3倍。Hさん(74)は80代の妻と48歳の息子と3人暮らし。本人無年金、妻の年金もわずか。自営業をしていたがコロナ禍の影響で仕事なくなった。Iさん(75)は脳性まひの娘と2人暮らし。本人も持病があり支出が多くなってしまふ。

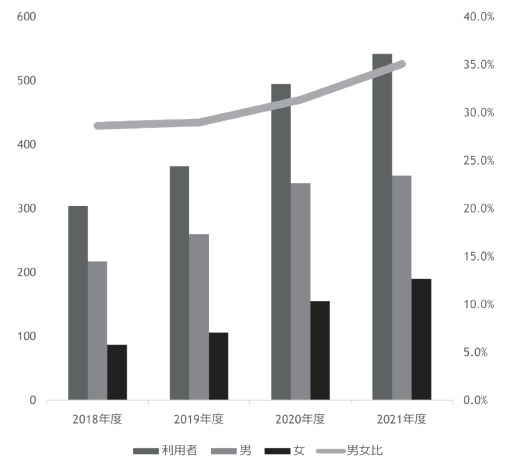
80代以上は8人⇒19人で約2.4倍。Jさん(80)は一人暮らしの年金生活者だが、金銭管理がうまくできない。Kさん(82)は夫婦ともに認知症で金銭管理ができず食べるものがない。息子は関わりを拒否。

### ◆フードバンクの支援で見えてきた 「女性」の困窮

次に、性別での相談者人数の推移(2018年度⇒2021年度)を見てみよう。男性の総数は217人⇒352人で約1.6倍。特に50代は42人⇒108人で約2.6倍、70代は10人⇒36人で3.6倍。

女性の総数は88人⇒190人で約2.2倍。コロナ拡大し始めた2020年を境に、ほとんどの

利用者実数・男女比



年代で相談者が急増した。依然、男性に比べて女性の相談は少ないが、伸び率は女性の方が高い。女性は特に、FBについて「友人から聞いた」「SNSを見て」などインフォーマルな経路が多い特徴がある。それによってFBの利用のハードルが下がったのか、もしくは「もともと苦しい生活だったのが、コロナを機に顕在化した」のか。これまでFBでは見えていなかった女性の生活困窮の実態が見えつつある。

◆ ◆ ◆  
厚労省によると、生活保護申請者数が2021年1月～12月で、23万件を超えた。前年と比べて1万1430件(5.1%)増加。2020年度は0.8%増加なので急激な伸び率だ。コロナ禍での困窮者の増加が表れている。フードバンクは今後も、立ち直りを支援するステップに欠かせないだろう。社会福祉士の専門的知識を生かしながら、生活保護行政と連携してソーシャルワークを展開していく必要がある。

# 今月のSOS

FB 相談世帯数（食品提供回数）

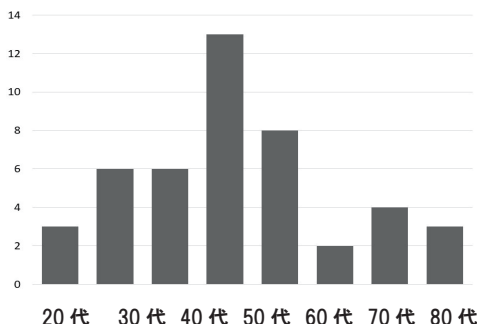
2月 101 世帯（支援 134 回）

3月 90 世帯（支援 120 回）

FB 主な利用理由(2022/2-3)\* 複数回答・総数 191 人

低収入・ 低年金	失業・就職		病気・ 障がい
	24	10	
30	精神 疾患	家賃 滞納	子育て・ 介護
		10	5
	6	金銭管理	DV・ 虐待
		4	1

FB 年代別 相談者数 (2022/2-3)



コロナ禍の影響  
がじわじわと深  
刻化しています。

多い日には1日  
25人の相談があ  
りました。

## 今月のSOS の一部

※ FB 利用者の状況を一部加工して抜粋掲載。

### 2月 101 世帯（複数支援 134 回）

2/3 ● RY 女 40 代・宇都宮市。10 代の娘、パートナーと連れ子 2 人の 5 人暮らし。1 月から工場で働いているが、**コロナの影響で仕事が少なく**世帯収入が減り困窮。⇒米 10kg 食品 6kg 支援。

2/8 ● TM 女 70 代・栃木県内。夫と 2 人

暮らし。収入は **10 万円の年金のみ**。家賃、医療費、返済で **9 万円が支払に回り**困窮。生活保護申請中。年金支給日まで食べるものがない。⇒食品 3kg 支援。

2/15 ● SF 男 20 代・宇都宮市。生活保護受給者。数日前の**自室の火災**により、日用品も生活保護のお金も**すべて無くなって**しまった。大家さんとともに来所。⇒食品 6 kg 日用品等支援。

2/22 ● TN 女 40 代・宇都宮市。**ブラジル国籍のシングルマザー**。高校生の長女、自閉症の 6 歳長男との 3 人暮らし。コロナの影響で仕事が休止となり、手持ちのお金が尽きてしまった。冬の暖房費用に 5 万円かかっている。⇒米 5 kg 食品 5kg 支援。

2/22 ● KM 男 30 代・宇都宮市。うつ病が再発し仕事を辞めざるを得なくなった。失業した時点で**会社の寮を退去しなければならず**困っている。生活保護の窓口や社協には相談中。⇒食品 4 kg 支援。

2/25 ● YT 女 10 代・宇都宮市。母と妹の 3 人暮らし。1 年半ほど前から生活保護を受給し、生活の立て直しを図っている。精神疾患にて就労できない**母親のケアをしながら高校に通っている**が、食事ができておらず一時的に食品支援がほしい。⇒米 3 kg 食品 6 kg 支援。

### 3月 90 世帯（複数支援 120 回）

3/1 ● BM 男 30 代・宇都宮市。**フィリピン出身**。留学生であったが 2/1 ビザ失効。90 日短期ビザ申請し、その間に特定技能ビザに切替えを予定している。仕事は決まったが所持金が尽きてしまった。⇒米 5kg 食品 6kg 支援。

## FBでたすかりました 突然の足の不調、しかし医療費高く… 2 週間水とパンだけ

近藤和重さん  
(仮名：52 歳 / 宇都宮市)

2 週間、2 つのパンしか食べておらず、あとは水を飲んで過ごしていました。というのも、一人暮らしで所持金は 0 円。足全体の調子が悪くて動けずじまいました。市役所に電話で相談したところ、「FBに相談するように」と言われました。

電話したところ、FBのスタッフさんがその日の夜に、食品をもって訪問してくれました。足をみてもらって「病院に行った方がいい」と言われ、無料で受けられる病院(無料定額診療所)を紹介してもらいました。

足の不調は、飲食店で働いていたころ、突然発症しました。以前、病院を受診してはいたのですが、1 回で 1 万円ほどかかり、生活も苦しかったので、原因がわかる前に行くのを辞めてしまっていました。今回、食品だけでなく、受診、生活保護の申請にもつなげてくださり、本当に救われました。





# SOSの途中

母娘2人暮らし  
コロナ禍での女性の生きづらさ  
石森沙希さん(仮名 59歳)  
垂矢さん(仮名 31歳)

## ■派遣で働くため、宇都宮へ

石森沙希さん(仮名 59歳)が、長女の垂矢さん(仮名 31歳)とペットの猫を連れて宇都宮へ来たのは4年前。東北から、宇都宮市内の製造業の派遣従業員として働くためであった。住まいは派遣会社が用意したペット可の1Kのアパート。新興住宅地に住んでいるため、ご近所付き合いもままならず地域に溶け込めずに暮らしてきた。

## ■療養中の娘。頼れるは母の収入

娘・垂矢さんは甲状腺の病気(女性に多い)を患っている。療養に専念しているため就労していない。唯一の働き手である母親の収入で、親子+猫1匹の生活を支えている。毎月の給与から社会保険料のほか、家賃、ガス・電気・水道料金や家電レンタル料の約6万円が天引きとなり、手元に振り込まれる手取り額は多い時でも12万円ほどである。貯蓄できる余裕はない。

## ■母が足を骨折し、休業・収入減り困窮

2021年9月、沙希さんが転倒し足を骨折してしまった。昼夜交代勤務の製造業のため立ち仕事が多い。当然ながら回復するまでは仕事を休まざるを得なかった。月収が減り、生活するためのお金がない。以前利用していた宮城県内のFBへ相談をしてみたところ、FBうつのみやを紹介してもらった。

## ■傷病手当金を申請できた

11月にFBを訪れた沙希さんは生活の様子を話し、食品支援を受けた。その時は派遣会社より傷病手当金(就労できなかった期間の給与の補填)の申請手続きが案内されており、待ちの状態であった。遅ればせながら健康保険の給付(休業補償)があり何とか生活をつなぐことができた。



小澤勇治 ● 本会職員

## ■妊娠発覚。どう生きていくか

2022年3月。娘とFBを訪れた沙希さん。これからどう生きていけばいいのか悩みを打ち明けてくれた。垂矢さんは郷里にいる時から付き合っている男性との間で妊娠し、予定日は10月。近い将来赤ちゃん含め3人の生活を始められるのかどうか。現在、宮城県内で働くパートナーとはまだ十分に合意ができていないとのこと。パートナーが宇都宮に来て仕事や住宅探しをするために、一時、同居することは考えられるが、現在のアパートではとても手狭だ。加えて、無事に出産するまでは、持病と付き合いつつの日々である。そのため来月の妊婦健診からは地域周産期医療機関に転院するよう、現在通っている近隣の診療所から紹介状が出ている。

FBとしては妊婦への具体的な支援はできないが、周産期医療や子育ての支援を行っているNPO法人や市役所の相談窓口をお伝えした。そして、子育て経験者が顔を出しているFBへ気軽に遊びに来てくださいと話した。

FBとしては妊婦への具体的な支援はできないが、周産期医療や子育ての支援を行っているNPO法人や市役所の相談窓口をお伝えした。そして、子育て経験者が顔を出しているFBへ気軽に遊びに来てくださいと話した。

.....  
\* 傷病手当金…全国健康保険協会HPより

病気休業中に被保険者とその家族の生活を保障するために設けられた制度で、被保険者が病気やケガのために会社を休み、事業主から十分な報酬が受けられない場合に支給される。

\* 母子健康手帳…「母子健康手帳の交付・活用の手引き」・厚生省妊娠から産後まで、新生児期から乳幼児期まで一貫して、健康の記録を、必要に応じて医療関係者が記載・参照し、また保護者自らも記載し管理できるよう工夫された、非常に優れた母子保健のツール。(母子保健法第16条において規定)

\* 「周産期」…東京都保健局HPより

妊娠2週から出生後7日未満までの期間。母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間。緊急事態に備えて産科・小児科双方の総合的な体制が必要。

\* 地域周産期医療機関…栃木県内は6病院。ちなみに、より高度な医療が受けられる総合周産期母子医療センターとしては2病院(自治医科大学付属病院と獨協医科大学附属病院)ある。

3/3 ● AT 男 50代・栃木県内。知的・精神障害者のグループホームに生活保護を受けて住んでいたが、施設職員の対応に不満があり退所。生活保護も切られてしまった。**住む場所がないと生活保護を申請できない**ので困っている。⇒食品4kg支援。不動産を紹介。

3/11 ● KA 男 30代・宇都宮市。妻と娘2人との4人家族。市内の子ども食堂から紹介された。生活保護受給中であるが、冬季の**暖房費と教育費がかさみ**食品の購入ができずに利用。ギャンブルによる浪費癖

がある。⇒米5kg食品6kgベビーフード3kg支援。後日おむつ配送。

3/18 ● FT 男 20代・宇都宮市。昨年仕事を退職。家賃未払いのためアパートを追い出されてしまった。他県に住む父から月2万円ほどを送金してもらい、**ネットカフェで生活**している。⇒食品4kg支援。アパート探しのため不動産を紹介。

3/19 ● UT 男 40代・宇都宮市。他県の施設に入居していたが退居し、親が住む栃木県に戻ってきた。宇都宮で生活保護を受けようと思っているが、**どうしたらよいか**

**からなくな**ってしまいました。お金もなく食べ物を買えない。⇒食品3kg支援。

3/29 ● KT 男 50代・宇都宮市。視力の低下により失業。80代の母親の障害年金8万円のみで生活しており、眼の治療費がない。**債務が約300万円**。所有の土地を売却し、生活保護を視野に入れている。⇒米2kg食品2kg支援。



▲加藤さん(右)とFB木下

さくら・ら心療内科では、食品回収のきずなBOXを設置しています。若者のデイケアで、オリジナルのきずなBOXをつくってもらい、受付に置いています。段々と食品の寄付をしてくれる人が増えています。また、患者さんの中には生活に困窮している方もいます。例えば、お母さんに病気がある母子家庭は、体調が悪くなると仕事ができず、収入が足りないことも。話を聴く中で、必要な場合は「FBに行ってみたら」と伝えています。診察室や受付にもFBのチラシを掲示して、必要な人へ情報が届けばと思っています。「助けてほしい」となかなか言いにくいですよね。孤独の状態では、自分の不安に意識が向きすぎてしまいます。コロナ禍でますます人と話せる機会が減っています。つながりや仲間の存在が重要だと感じています。行動をすれば、意識がそちらに向かうので不安が少し和らぐと思います。FBは直接食品がもらえて、話もできる。ちょっと相談してみたい方は、FBに行ってみてほしいです。

## 中学校の授業で知ったフードバンク。貧困の現状が身近に

Kさん(中学生・春から高校生)



私は学校の総合の時間でこのフードバンクの活動について学びました。人のために何かしたいけれど、何をすればいいのかわからないうちに。その中で私のような中学生・高校生でもボランティアとして食品の整理などのお手伝いができること知り、やってみたいと思いました。実際にフードバンクのボランティア活動してみると、さまざまな事情を抱えた方をお見かけし、貧困という現状を身近に感じました。また食品がどれだけ貴重なもので食品ロスがどれだけもったいないものであるかを身にしみました。ここでボランティアの活動または働いている人たちの良心を見習って、この活動だけでなく日常生活でも困っている人のお手伝いのできたらいいと思っています。

◀学校帰りに友達とボランティア

## 第20回きずなセット食品配布会 64世帯に

## FBボランティア募集

●問 /028-348-3412

おさがるに ご連絡ください



▲きずなセットの作成風景  
大学生ボランティアも来てくれました！

4月9日に実施した第20回きずなセット提供プロジェクトは、埼玉事務所と泉が丘支所の2カ所で食品配布会を行いました。「コロナ禍で生活にお困りの栃木県内の方」を対象に、計64世帯に、約6キロの食品を提供しました。また、つながりサポート事業の一環で、必要な人には生理用品のセットも渡しました。今回のプロジェクトが、コロナ禍の生活の一助になるとともに、今後も必要な人へ情報と支援が行くことを願います。

●FBうつのみやでは、配布会のみならず、常時、事務所にて相談対応・食品支援を行っています。食べ物や生活にお困りの方がいたら、ご案内ください。

- ・相談聞き取りボランティア  
FBに「食品ほしい」と来る人の話を聞きシートに記入します。不安な人は研修も受けられます。1回2時間、週1・2回程度。
- ・パソコン入力ボランティア★大募集  
食品の入庫・出庫伝票のデータをパソコンに打ち込みます。週1回程度。
- ・食品回収ボランティア★大募集  
スーパーや施設へきずなボックスの食品の回収のために車を運転します。月2～4回。
- ・食品管理ボランティア  
入庫した食品の賞味期限を確認し、期限ごとに食品棚に並べます。相談者へ渡す食品も準備します。週に1～2日、3時間位が目安。

## 会員・寄付者 ありがとうございます♡



4/25 現在：正会員44人、賛助154人、団体6)

《2～3月の新規・継続会員》※敬称略

■正会員/ 服部 有、荒川 寛、原 隆、麦倉泰子、松尾美智子、赤堀和彦、加藤裕子、木下朗、北阿吉民、千嶋巖 ■賛助会員/ 岩崎幸子、石川輝雄、横井裕美、林紀尚、佐藤るり子、林田恵子、齋藤継正、下部陽子、黒須雪枝、生野俊美、境京子、林俊夫、若色美佐子、原田芳子、前田佐知子、片嶋春恵、塚本明子、松尾美智子、屋代あゆみ、小椋山悦子、生野裕子、人見智子、竹内美由紀、藤原公茂、齊藤幸子、宮村尚、平木ささこ、毛木宏美、池田雄介、吉原さつき、矢吹拓、磯飛泰子、千嶋巖、福田倫子、早川美奈子、川口雄史、伏木須江、荻津守、武井大、永森裕子、枝野啓子 ■団体会員/ 日本栄養給食協会

《寄付者》岩崎幸子、小林茂之、黒須雪枝、瀧田玲子、高橋めぐ美、片嶋春恵、塚本明子、金沢貴子、恵光寺、足利銀行本店ブロック、渡部邦子

「もったいない」を  
「ありがとう」に。  
会員を大募集中！  
ボランティアも

◆会費(年間)

- ◎正会員 12,000円
- ◎賛助会員 3,000円
- ◎団体会員 30,000円
- ◎学生サポーター 1,000円

会費・寄付はこちら ※匿名希望の方はご連絡ください

■銀行

栃木銀行 馬場町支店 普通 1086399

名義/特定非営利活動法人フードバンクうつのみや 理事徳山篤  
※領収書発行のため、メールか電話で、氏名と連絡先をご一報ください。

■郵便局

宇都宮 00260-2-90882

特定非営利活動法人フードバンクうつのみや

■Webサイトから

クレジットカードでのご寄付もできます。



HP



Twitter